

＜多治見空手道教室だより＞

H30. 11. 10

昨年まで陶都大会として19回続けてきて、今年は記念すべき20回大会になる筈でしたが、NHKの朝ドラの「半分青い」の影響かどうかは知りませんが、今年から第1回東美濃（東濃に可児と御嵩を加えた地域）大会と名称を変えて開催しました。



眉はけオモト

総合体育館の第1競技場が工事中のため、少し窮屈ですが第2競技場に2コート作って詰め込みで開催しました。

それでも選手は頑張っていました。団体戦の終了間際になってから、17時までしか会場を借りてないと言う主催者側の大チョンボで、急遽荷物を纏めて次の使用予定者に会場を明け渡し、2階の柔道場へ移動して表彰式と閉会式を行うことになってしまいました。

永年大会運営に携わっている我々からすると、あそこの道場が担当の時は、何で毎回チョンボが多いのか不思議でなりません。

来年はマスターズ2019岐阜大会が、9月14日～16日まで、メモリアルで開催されます。

13日にリハーサルで17日は片付けもあるので、大会慣れた拳和会育成会の皆さんには、是非、大会運営部に登録して、運営サポートをお願い致します。

今年は県連事務局が忙し過ぎて家の手伝いが出来ないことと、真夏に1ヶ月も雨の降らない異常気象で我が家の裏庭は荒れ放題ですが、花友に頂いた珍しい花「眉はけオモト」が咲いているので紹介します。

今日のお便りは相変わらず形では大活躍の、第1回東美濃大会の結果を報告します。

記

1. 第1回東美濃空手道大会 11/4（日）多治見市総合体育館第2競技場

【入賞結果】（形）幼稚園保育園：優勝＝佐々 楓、準優勝＝岩永康聖、

小学1年：優勝＝西川原利紅、準優勝＝加中康佑、3位＝大隅至道、

小学2年：優勝＝浅井健琉、小学3年：優勝＝大隅創堅、準優勝＝勝又歌音、

小学5年：優勝＝浅井丈一郎、準優勝＝高内陸豊、3位＝小坂凌空、

小学6年：優勝＝高倉滉生、準優勝＝西川原未侖、中学男子：準優勝＝灰塚遙音、

中学生女子：準優勝＝杉森心春、3位＝服部晏奈、

高校一般：優勝＝木俣 鼓、準優勝＝高内亜樹、

（組手）小学1年：3位＝西川原利紅、小学2年優勝＝浅井健琉、

小学4年：準優勝＝前川源太、中学女子：準優勝＝木俣 睦、

一般男子：準優勝＝柴田博幸、

【総評】

・最近の練習を見ていて、幼稚園では楓が優勝することは想像がついていましたが、前日まで太極初段で苦戦していた康聖の準優勝は想像が付きませんでした。

・1年生の利紅と康佑が勝つことは当然と思っていましたが、至道の平安2段は驚きの上手さでした。

・形では何時も勝っているのに入賞出来ない源太と睦は、早めに指斐の選手に当たって負けてしまったけれど、2人共組手で雪辱を果たしていました。

・組手では今回も一部のを除いて見事に負けていますが、指導者は試合を見て敗因を分析して下さい。

判定基準には6つあり：a. 良い姿勢、b. スポーツマンらしい態度、c. 気力、d. 残心、e. 適切なタイミング、f. 正確な距離がありますが、全国のトップ選手の試合でもないのに、殆どは相手より早く（適切なタイミング）で踏み込んで、届く距離（正確な距離）で突きや蹴りを出せば勝てるのです。

教室の選手に足りないのは、相手に速く飛び込んで正確な技を出すことです。

青島が速いステップの練習を、させるように言っているのはその為です。

どの試合でもほんの少し遅いか、踏み込みの距離が足りないので、手数を出しても審判は挙げてくれません。

健琉も決勝では上段蹴りを食らって、残り1秒で逆転しましたが、彼は踏み込みが速いので勝てるのです。

騙されたと思って、速く踏み込んで直ぐに後ろ足を引いてくる練習を必ず取り入れて下さい。

大股で深い前屈の様に伸び切った突きの練習は、決まった時は良い姿勢だと思って教えていると思いますが、審判が取ってくれないければ、直ぐに動けない格好なので負けてしまいます。



組手優勝：健琉・上段突き



形優勝：楓

利紅

健琉

創堅

丈一郎

滉生



形優勝：鼓



形準優勝：康聖

康佑

歌音

陸豊

未侑



形準優勝：遙音

心春

高内



形3位：至道

凜空

晏奈



組手3位：利紅・中段突き



組手準優勝：源太・上段突き



組手準優勝：睦・上段突き



組手準優勝：柴田・中段突き



沢山の賞状を手にした拳和会多治見教室の参加者